

どうすれば広がる？

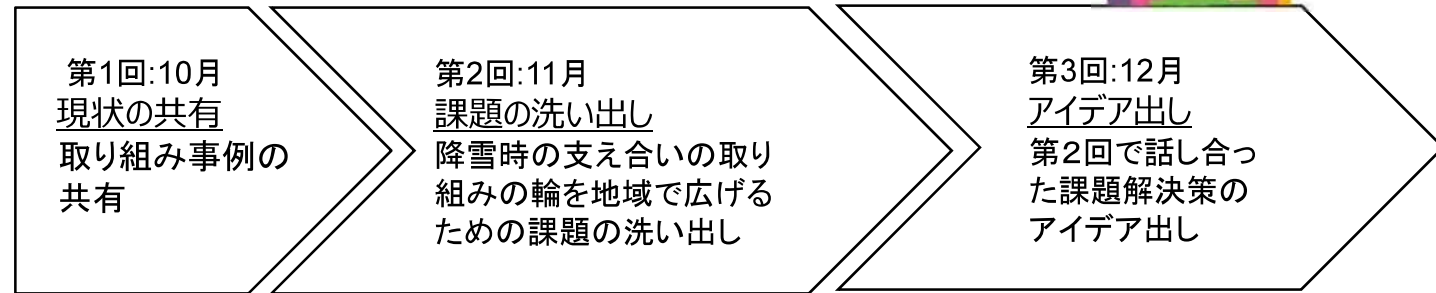
降雪時の支え合いの取り組みの輪

～西区自治協議会～

西区自治協議会では、平成30年豪雪を踏まえ、行政と地域の役割分担の中で、地域、区民として、例年並みの降雪時において、地域での取り組みの輪を広げるために、区民等と市の協働の要として、地域課題について地域で何ができるかについて、本会の場で話し合いを行いました。



課題解決に向けた行程



第1回（10月）降雪時の取り組み事例情報交換

地域の取り組み事例や課題について報告いただき、支え合いの取り組み・共助が進んでいる地域がある一方で、「助け合いの団体への除雪の相談が殺到し、対応できてない」「支え手のマンパワーが足りない」などの現状や課題もあることがわかりました。

1 新中浜町内会「おたすけ隊」の取り組み事例発表（一部抜粋） 会長 倉林正喜氏

○「おたすけ隊」（除雪に関する部分）について

- ・世帯数は688世帯
- ・除雪に関するお助け隊登録者は隊長、副隊長など15名（会社員2名含む、60歳台後半から80歳位まで、さまざまな仕事を経験された方々）
- ・今年で結成8年目、結成するために、活動目的やこうゆうことをやりたいと一人ずつ説得し、徐々に輪が広がった。
- ・目的は、①子どもの通学路（歩道）の確保、②要介護、要支援者宅の玄関から道路までの除雪、③業者が積み残した雪の塊の粉碎
- ・従事は午前6時～9時までで、3時間以上は実施しない。
- ・有償ボランティア、傷害保険に加入 ・小型除雪機、スノーダンプ、スコップを使用
- ・西内野小学校に行くまでの26カ所の交差点等を除雪
- ・要介護、要支援者宅の玄関からの除雪については、11月下旬～12月初旬に回覧板で除雪をお願いしたい世帯を募集、22世帯程度の実施
- ・空き地や空き家の草刈り等の管理を請け負い、得た収入をもとにおたすけ隊の運営を実施

2 西区自治協議会からの地域の取り組み事例や状況等の報告（一部抜粋）

- ・おたすけ隊を編成しているところが何カ所があるが、まだ編成までいかないところが多い
- ・おたすけ隊のかたちを目指している状況が進んでいる
- ・それぞれの自治会の状況に合わせて検討しながら頑張っている。寺瀬委員（西内野コミュニティ協議会）
- ・道が狭いために除雪車が入らない所が多いが、農家組合に委託をしてトラクター除雪を行っている。小林邦太郎委員（コミュニティ中野小屋）
- ・赤塚地区は、農家組合等に委託をして除雪を行っている。
- ・新興住宅地のみずき野地区は、心配していたが、お互い助け合って除雪をしている姿がみられたので心強く思っている。高島委員（コミュニティ佐潟）
- ・一部の自治会で、区の除雪機を借りて除雪をしていると聞いている。風間委員（東青山小学校区コミュニティ協議会）
- ・狭い道路が多い地域
- ・黒埼地域の農家から協力いただき、トラクターを活用して除雪を行い、役員が立ち会っている。岩沢委員（五十嵐小学校区コミュニティ協議会）
- ・五十嵐コミュニティ協議会内の自治会の状況になるが、通学路や歩道、高齢者の玄関前の除雪を行っている自治会や黒埼地域の農家のトラクターを頼んで除雪を行っている自治会がある。
- ・個人の取り組みだが、降雪時のごみ出しや買い物支援を行っている事例もある。木村委員（西区社会福祉協議会）
- ・おたすけ隊という名称で活動を行っている自治会がある。
- ・高齢者が多く、なかなか組織として継続できない自治会も多い。
- ・除雪については、現在検討中 佐藤委員（真砂小学校区コミュニティ協議会）
- ・共助の考え方が定着している。
- ・要支援者等については隣同士での協力をお願いしている。下川委員（坂小・小新中学校区まちづくり協議会）

- ・袋小路等道路が狭いところがある。
- ・共助の意識が薄くなってきている。共助の考えを浸透させていかなければいけないと思う。岩協委員（小針小学校区コミュニティ協議会）
- ・農村地域で、各戸の除雪面積が大きく、自助努力で除雪を行っており、支え合う余力がないのが現状 大谷委員（黒埼南ふれあい協議会）
- ・農村地域で、各戸で除雪機を持っていて、排雪地も多い。浅妻委員（大野小学校区ふれあい協議会）
- ・私道は、ほとんど除雪業者をお願いしている。
- ・通学路については、PTAが協力して行っている。藤橋委員（山田小学校区ふれあい協議会）
- ・通学路は、近所の方や見守り隊の方が協力して除雪を行っている。
- ・バス停やごみステーションは近所の方が除雪してくれている。渡辺美弥子委員（立仏校区ふれあい協議会）
- ・自治会と民生委員が話し合っ、大変そうな世帯を積極的に回るようにしている。
- ・役員の善意に甘えているだけでは長く続かないと感じている。藤丸委員（西区民生児童委員会連絡会）
- ・新潟市社会福祉協議会、西区社会福祉協議会でも地域の取り組みを把握しようという目的で「見守り・支え合いBook」を作成しているが、全部把握できていない現状がある。
- ・「まごころヘルプ」等の住民同士の助け合いの団体はあるが、降雪時に相談が殺到していて、なかなか手が回っていない。
- ・地域での素晴らしい取り組みを知らない方がいる。
- ・自分からSOSを出せない方もいる。そういう方の視点も含めて今後皆さんと検討をしていきたい。加野委員（西区支え合いのしくみづくり会議）



第2回（11月）降雪時の支え合いの取り組みの輪を地域で 広げるための課題の洗い出し（グループワーク）

降雪時に支え合いの取り組みの輪を地域で広げるためには、どのような課題があるか、地域別に4つのグループに分かれ、現状や課題、感じていること、こうしたら良いのではないかとアイデアなど、幅広く話し合い、発表しました。

【発表や話し合いの内容：一部抜粋】

○坂井輪地区①（坂井輪中学校区）グループ

- ・高齢化が進む中、子どもたちと一緒にできることがあるのではないかな。
- ・弱者の中には、つながりの関係を築くことができない人もいないかな。
- ・スポーツ雪かきなど楽しめる取り組みがあっても良いのではないかな。
- ・地域のつながりは大切と感じている。
- ・個人的な近所づきあいはあるが、組織的な動きにつながっていない。

○坂井輪地区②（坂井輪中学校区以外の坂井輪地区）グループ

- ・市（区）の取り組み等（補助、市と地域の役割分担等）、現状の周知が必要ではないかな。
- ・マンパワーが不足している。・高齢化が深刻な状況
- ・地域の助け合いの大切さをいかに伝えるかが課題

○黒埼・佐潟・中野小屋地区グループ

- ・今は良いが、次世代がつながりや協力体制を維持できるか心配
- ・高齢者が困っている情報が伝わらず、把握できない。
- ・現在は、自助が定着していてあまり困っていない。村中はきれいだった。
- ・自治会で普段から共助の考え方を広報誌等で周知したほうが良いのではないかな
- ・困っている人や高齢者の情報が入手・共有困難な状況がある。

○内野・西内野地区グループ

- ・ボランティアがなかなかいない。
- ・マンパワーが不足している。
- ・ご近所づきあいが少なくなっている
- ・高齢化や一人暮らしが増加している。
- ・共助の考え方の周知をしたほうが良い。



第3回（12月）降雪時の支え合いの取り組みの輪を地域で 広げるためのアイデア出し（グループワーク）

支え合いの取り組みの輪を広げるときの課題である『地域での助け合い（共助）の大切さをいかに（どのように、どんな方法で）広め、次世代へ（どのように、どんな方法で）伝えるか』をテーマに、グループごとに自由にアイデアを出し合いました。

【発表や話し合いの内容：一部抜粋】

○支え合いの大切さを伝える方法に関するアイデア

- ・自治協で支え合いの大切さを伝える標語を募集してはどうか。
- ・今回のテーマについて、自治会や老人会、PTAなどさまざまな集まりの場で話し合いが大切。
- ・今回、自治協で取り組んだ話し合いや集めた事例、活動の周知が大切。
- ・自治協、コミ協、自治会広報誌の活用

○地域のコミュニケーションづくりに関するアイデア

- ・休日に一斉雪かき日を設けてはどうか。顔を合わせるようになるとコミュニケーションが生まれる。
- ・普段から班ごとの茶話会を行うなどコミュニケーションを図る。
- ・雪が何センチ積もったら、かまくらづくり等の行事を行うなど降雪を楽しむ機会を作ってはどうか。
- ・近所の高齢者等一人で雪かきが困難な方への声掛けの意識づけが大切。

○若者に協力してもらおう体制に関するアイデア

- ・例えば各中学校区単位で行っている防災訓練で活躍している中学生の姿を伝えることで、中学生も地域活動の担い手ということ知ってもらってはどうか。
- ・高齢者の世代が若い方に積極的の声掛けを行う。
- ・親子で参加できる行事を企画し、親子を巻き込んで仲間づくりをしたらどうか。
- ・高齢者が楽しんで様々な活動を行っている姿を伝えてはどうか。
- ・休日に子どもたちにも声をかけて、一緒に歩道除雪を行ってはどうか（ご近所、班単位や自治会単位等）
- ・小学校や中学校、大学単位で除雪支援隊を作り、困っている地域に出動できるような体制づくりも必要ではないかな。
- ・教育機関と連携し、学校の体育の授業で雪かきをしてもらうのはどうか。
- ・情報共有を行うために情報ネットワークを活用する。

西区自治協議会は、これらのアイデア実現をはじめ、
さまざまな地域課題の解決に向けて取り組んでいきます。

